



うち どく

美里中学校区教育を考える会
紀美野町立美里中学校・育友会

家読のススメ

「家読(うちどく)」とは、学校で行われている「朝の15分間読書(朝読(あさどく))月・火」の習慣を家庭にも取り入れて、読書の楽しさを家族で味わおう・家族のコミュニケーション方法として読書を活用しようという読書スタイルの1つです。「学力は読書に比例!」「学力向上の決め手は読書量!」と言われますが、全国学力・学習状況調査では、本校生徒は家での読書はほとんど行っていない現状です。家で読書をするように言っても、なかなか子どもだけでは難しいものです。家庭の協力＝読書をする環境が整わなければできません。そこで家読です。

○家読(うちどく)ってどうやるの?

基本は「家族で同じ空間で本を読んで、感想を共有する」だけ!

同じ本を読む・おススメの本を教えあう・読んでもらう・自分で読む・感想や意見は話しあう・家読ノートを用意して記録する…

それぞれの家庭に合ったやり方で、本をきっかけに家族で会話ができればそれが「家読(うちどく)」になります。

○家読(うちどく)って何がいいの?

家族それぞれの立場で気持ちを話してあげる、誰かが話したいサインを出したら聞いてあげるというように、「本を通してゆったりした家族のコミュニケーションをとることができる」のが、家読の魅力です。

無理に感想や意見を言わなくちゃ…同じ気持ちにならなくちゃ…と思わなくても大丈夫です。大切なのは、「こんなふうに思った」を受け止めることです。

「家読で培われる4ステップの学力」

①話に出会う段階

- ・**読む力**…子どもが家族に読み語りをおこなう。また、交代で読む。など
- ・**聴く力**…家族が子どもに読んであげる。
- ・**再読する力**…繰り返し読むことで忘れたことを思い出したり、新たな発見をしたりする。

②話の内容から考えを持つ段階

- ・**理解力**…登場人物や場面の移り変わりから、話を内容を理解する。
- ・**思考力**…登場人物の言葉や行動から、登場人物の考えや話のテーマを考える。
- ・**想像力**…文中の言葉や絵から、話を映像化する。

③思いを他者に伝える段階

- ・**表現力**…考えたことや伝えたいことを、ノートなどに書き表したり、家族に話す。

④思いを交流させる段階

- ・**コミュニケーション力**…言葉を交わすことで、コミュニケーションするよさを感じる。
- ・**言葉を磨く力**…家族の思いを聴いたり家族に思いを伝えたりすることを通して、的確な表現や適切な言葉を身につける。
- ・**自己決定をする力**…同意・比較・反論をとおして自分の思いを確実にする。



週2日(火・木)をNO!テレビ、NO!ゲーム、NO!スマホ・携帯dayにして、家族で読書をしましょう!

読書率全国1位はやっぱり秋田県！（全国学力・学習状況調査より）

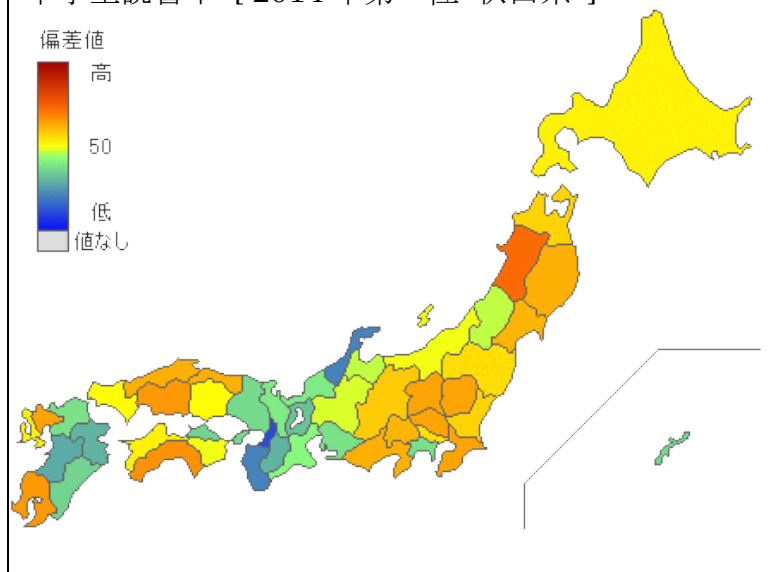
学力は読書に比例！ 学力向上の決め手は読書量！



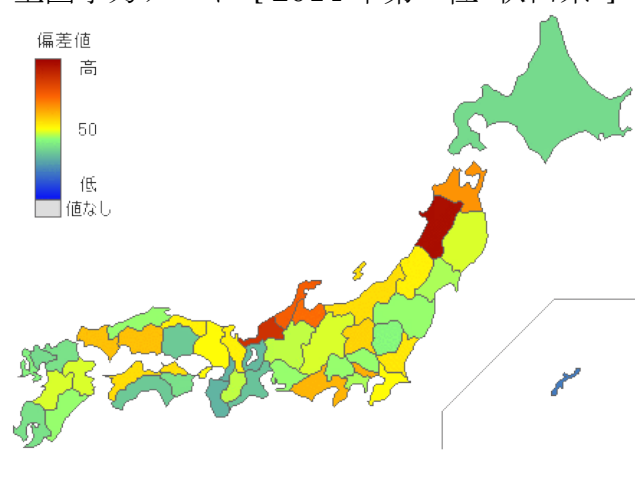
下の地図は文部科学省の全国学力テストから、中学生読書率のランキングを表したものです。全国学力テストには学力テスト以外に、子どもの生活習慣全般のアンケート（学習状況調査）があり、その中から平日に読書をする中学3年生の割合を比較しています。ここで言う“本”にはマンガや雑誌、教科書、参考書は含まれていません。

中学生読書率の全国平均は 65.7%は、小学生読書率の 80.7%より低い。もっとも読書が盛んなのは秋田県で 73.7%。以下、高知県、鹿児島県、広島県、佐賀県と続いています。一方、読書率が最も低いのは大阪府で 54.3%。ちなみに和歌山県は 57.5%で 45 位。中学生の学力は 61.9%で 42 位でした。小学生では読書率 1 位と最下位の差は 10.7 ポイントでしたが、中学生では 19.4 ポイントと開いており、年齢があがるごとに読書週間の差が大きくなっています。

中学生読書率〔2014 年第一位 秋田県〕



全国学力テスト〔2014 年第一位 秋田県〕



一昨年度、「美里中学校区の教育を考える会」を立ち上げ、紀美野町保健福祉課、教育委員会、下神野小学校、神野保育所、美里中学校で協議してまいりました。昨年度保・小・中で共通して取り組めることは、「学力の土台となる読書」「読書習慣は小学校・保育所が鍵」ということから『読書』になりました。

保健福祉課では、生まれた時から高校卒業するまで、家読を記録として残せるよう、『本との出会い』ファイルを作成して、この読書の取組を紀美野町あげて取り組もうと応援・準備してくれています。